



- 1 害獣を甘く見ない！
- 2 **羅針盤** AI と人間の関係性
- 4 躍進が考える木材と日本文化 ③
- 6 ヒートショック対策の決定版
- 6 総点検はドローンにおまかせ
- 8 大地震を考える

害獣を甘く見ない！



躍進名物の立て看板がリニューアルしました（**左写真参照**）！今回のテーマは害獣と害虫です。そして**中写真**と**右写真**は、ハクビシンが侵入したお宅の害虫駆除の様子です。

ハクビシンは古い住宅の屋根裏に潜み、電線をかじるなどの被害をもたらすだけでなく、寄生している害虫被害の方が大きいのです。そのためこのような形での重装備で害獣・害虫駆除を行っている次第です。

残念ながらハクビシンは法律上在来種扱いとなっているため、タヌキ、ニホンアナグマ同様リリースしても問題ないのです。中国や東南アジア諸国に広く生息し、日本原産ではないのですが、いつ日本に持ち込まれたのかが不明であるため、法的には在来種なのです。

しかしハクビシンがもたらす害だけでなく、ダニをはじめとする寄生虫被害は深刻です。もしハクビシン侵入の跡をみつけたら躍進までご連絡ください。お待ちしております！

AIと人間の関係性



使いこなすものであって使われてはいけない

昨今はビジネスシーンだけでなく、家庭生活においてもAI（人工知能）が普及しています。しかしこれは、あくまで使いこなすものであって、決して使われてはいけないのです。

一番怖いのが、子供の教育におけるAI依存度の高さです。何か分からないことがあっても、「オッケー、グーグル……」で始まって、自分の疑問に対してどのように対処すべきかまで聞いてしまい、AIの言いなりになって自分で考える頭を養わなくなっているのです。

AIは、ヒューマンエラーを100%起こさせないためにだけ用いるべきものでしょう。AIはデータ入力さえ間違わなければ、計算ミスは一切起こりません。仮に未知の事象に出会っても、その正解を知ることによって自ら成長し、同じ間違いを犯さなくなるのです。

よく将棋の藤井聡太7冠（2024年9月現在）や、作家の村上春樹氏などについて、「AIが思いつかない発想をする」と評されていますが、確かに現時点ではそのとおりです。

しかし、前述のように、AIは過去のデータを積み重ねて自らを成長させるので、いずれ藤井聡太7冠の指し手や村上春樹氏の作品傾向を正確に分析し、同じもの、もしくはそれ以上のものを作り出してしまうでしょう。

「フレーム問題」を忘れない

繰り返しになりますが、AIは100%ヒューマンエラーを起こしません。そのため、今後の医学界では誤診を防ぐため、病理や放射線関連の医師を減らし、AIに代行させるようになっていくと言われています。

しかしここで忘れてはならないのが、AIが持つ「フレーム問題」という弱点です。有限の情報処理能力しかないロボットには、現実には起こりうる問題全てに対処することができないことを示すものであるということです（ウィキペディア〈Wikipedia〉より抜粋・要約）。

例えば、AIを搭載したサイボーグのコックさんがいたとしましょう。彼の作る料理は世界一の味だと大評判になると思います。

しかしある日、厨房で火事が発生したとします。人間のコックさんなら迷うことなく消火器で消し止めますが、サイボーグコックさんは燃え盛る火を見つめて考え込んでしまいます。

なぜならこの火事は、「世界一の料理を作るというフレーム」から外れているため、どう対処すればよいのか考え込み、正解にたどり着くまでに無限の時間がかかってしまうからです。そのため、「火事に対するフレーム」を定義しておかなければなりません。

それでも「火事に対するフレーム」だけで足りるのでしょうか。「地震をはじめとする自然災害からお客様を守るフレーム」など考えだしたらきりがありません。しかし常識ある人間なら適切な対処が可能です。

限られた範囲でヒューマンエラーを防ぐ

こう考えると、やはり限られた範囲でAIを活用するしかないのです。特に核利用に関しては、むしろAIは遠ざけて然るべきでしょう。AIには迷いがいないため、定義された「フレーム」通りであれば、何の躊躇（ちゅうちょ）もなく核ボタンを押すからです。

前述の通り医学では、病理診断、放射線診断などに限って用いるものかもしれません。躍進の仕事であれば、点検業務で得たデータを正確に入力することで、最適な対処法をはじき出せると思います。

しかし、躍進の仕事は突き詰めて考えると、サービス業にほかなりません。そのサービスは臨機応変、時にはイレギュラーな対応を要求されると思います。例えば訪問先のエンドユーザー様が急に体調不良を起こした時に、「AI 躍進マン」だと救急車を呼ぶようなことをせず、苦しむお客様を横目に淡々と仕事をするだけでしょ。

こんなやり方でサービス業が成り立つなら、労働基準法の適用外となるAIに、24時間365日働かせて利益を上げる会社ばかりとなります。当然失業率も上昇し、新たな社会問題となるでしょう。

冒頭にあるように、AIは使いこなすものであって決して使われてはいけないのです。「オッケー、グーグル……」で出た答えを妄信するのであればロボット以下でしょう。少なくとも躍進マンは、限られた範囲でヒューマンエラーを防ぐためだけにAIを活用し、それ以外は自分の頭で考え、お客様に最高のサービスを提供するように心がけております。

躍進が考える 木材と日本文化 ③



地産地消の代名詞

前号で、埼玉県でも県産材であるスギやヒノキの「西川材」の育成に力を入れ、間伐材活動を推進しているお話をさせていただきました。それは自然保護、環境保護だけでなく、地産地消による木造住宅建築の活性化に一役買うからです。

そもそも地産地消とは、その地域で生産されたものを、文字通りその地域で消費して、生産者と消費者の距離を縮める運動です。一般的には農産物に対する地産地消が良く知られていますが、一番規模が大きく、環境負荷軽減効果が高いのが、地元材を用いた木造住宅建築なのです。

もっと言えば、地元の木材を使って木造戸建て住宅を建てることは、地産地消の代名詞といっても過言ではないのです。なぜなら使用される単価が大きく、外材に押されて疲弊している国内の林業従事者を保護するうえで、最も重要だからです。

LCA の視点を持つ

皆様は、ライフサイクルアセスメント（以下 LCA とする）をご存知でしょうか。この世のすべての製品における、製造から廃棄に至るまでの環境負荷を数字で表したものです。そして結論を先に言えば、木材の地産地消ほど LCA で得られる環境負荷の数値が低いものはないのです。

専門家の間では常識となっていることですが、あえて申し上げれば太陽光パネルの LCA は環境負荷数値が大きいのです。理由は金属部分やパネルを製造する時に発生する熱が、二酸化炭素の排出を多くしているからです。

確かに太陽光パネルは化石燃料や原子力エネルギーを用いないので、一番環境負荷が低いように思われますが、それを製造するまでに既に大きな負荷がかかっているのです。

また、輸送に用いられる燃料や、廃棄処分された可燃性部分の焼却燃料が排出する二酸化炭素も、決して馬鹿にならない環境負荷を与えています。

これを裏付ける実験を、ある国立大学の農学部の教授が行いました。東京で木造戸建て住宅を建てる場合、フィンランドから輸入するホワイトウッドを用いる場合と、東京の檜原村で産出された杉材などで建てる場合を比較したのです。

その結果、フィンランドから木材を輸送する船が排出するガスの環境負荷の大きさが目立ち、地産地消による木造住宅の家づくりが一番環境に優しいことが分かったのです。

地域によって事情が違う

しかし現状の木造住宅は、外材を用いた集成材でプレカットによって柱や梁をつくり、工場で製作したパネル式の壁をはめ込む木質パネル住宅が多くなっています。耐震性も高く、在来工法の応用なので、構造材となる柱や梁は老朽化すれば取り替えられます。

それでもなぜ外材を用いる必要性があったのでしょうか。理由は様々にありますが、国内の林業の担い手が少なくなり、相対的に外材に頼らざるを得なくなったことが最大の原因です。

また、マツクイムシによって国産のマツが荒らされ、梁などの横架材に用いる大径木(だいけいぼく)の無垢材が手に入れにくくなったことがあります。

しかしこれには地域差があるようです。マツクイムシによる被害は主に西日本で報告されていますが、青森県ではアカマツを他県のみなさんにも使って欲しいと、行政を挙げて需要の掘り起こしを行っているくらいです。

こうした現状を知れば、例え関東に住んでいても、青森県から木材を仕入れれば、地産地消の拡大版になります。何よりも海外から輸入する必要がないので、二酸化炭素の排出も抑えられ、LCAの数値向上に貢献できます。

現在では、木造住宅に限らず、著名な建築家の手によって、木造の公共施設もあちこちに建設されております。また、木造先進国ドイツでは、集成材による高速道路の橋梁があるくらいです。

こうしたことは、家を建てられるお施主様の意識の問題です。工務店様、ビルダー様は、同じ木造住宅であれば、地域によって事情が違うことをご説明し、地産地消の活性化に一役買っていただけるようにお勧めください。

ヒートショック対策の決定版 浴室換気乾燥暖房機

秋も徐々に深まり、躍進ではヒートショック対策用の浴室換気乾燥暖房機として、「壁面タイプ／浴室用／防水仕様」、「同／脱衣室・トイレ・小部屋用」、「同／換気扇内蔵タイプ」、「同／換気扇連動タイプ」、「天井取付タイプ」(写真参照)をご用意いたしました。

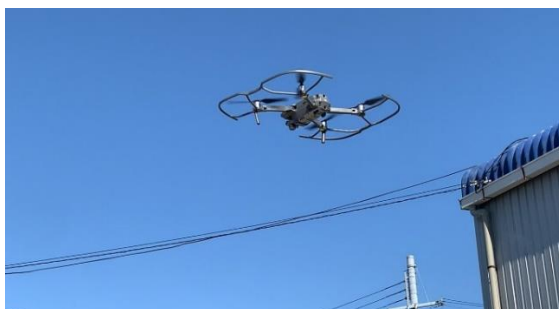


冬場の浴室の脱衣所やトイレ、廊下などで寒さにさらされると、血管の過度の収縮により血圧が急変動し、脈拍が早くなり、高齢者の場合、心疾患や脳障害などの事故につながることもあります。最悪の場合、急性心不全、心筋梗塞、くも膜下出血などによる突発的な死を引き起こします。

65歳以上の方は、たとえ健康に自信があったとしても、入浴時には注意が必要です。脱衣所と浴室の温度差が10℃以上にならないように注意しなくてはなりません。さらに、高血圧・糖尿病・動脈硬化のある方、肥満気味の方、睡眠時無呼吸症候群や不整脈がある方、お酒を飲んでから入浴する習慣のある方などはヒートショックに要注意です。

入浴前にその都度浴室をシャワーで暖めたり、脱衣所にファンヒーターを移動したりするのは、負担が大きいままです。浴室換気乾燥暖房機によって、安心・安全を確保してください。ご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽にご連絡ください。

総点検はドローンにおまかせ



すっかりおなじみになりました「ドローンを用いた空撮による屋根、外壁、防水箇所の点検」は、大好評をいただいております。ドローン点検のメリットは様々にあります。

まず、その場で一緒に屋根・外壁の撮影画面を確認できます。お施主さまも点検画面を確認できるため、安心と納得を提供できるのです。また、画面を見ながら細かいところまで確認ができます。搭載したカメラのズーム機能を活用することによって、詳細な確認が可能となります。さらに、足場を組むこともなく、高所での作業が必要ないので短時間で点検できます。屋根に上らないので、屋根材を傷めることもありません。

衝突防止機能も万全

ドローン操作を安全・確実なものにするために、各種センサーを活用し、3つの万全な衝突防止対策を実施しています。



1つ目はデュアルビジョンセンサーですが、これは、機体センサーで障害物までの位置を検知し、衝突防止を実現します。2つ目の気圧・風速センサーによって、気圧・風速を感知することで、安全な状態での飛行を実現します。3つ目の赤外線検知システムの活用によって、ビジョンセンサーだけではなく、赤外線でも障害物を検知します。

保険をはじめ適切なトラブル対応を実現

そして、トラブル発生に備えて、保険の完備をはじめサポート体制も確立しています。対人・対物の保険として、万が一の事故に備え、対人・対物とも1億円まで補償対応いたします。また、人権侵害の保険として、点検によりプライバシーを侵害した場合、損害賠償金を補償いたします。さらに、「ドローン対応チーム」によって、事故発生時もドローンのプロフェッショナルチームによる対応を実施いたします。

ドローンの活用によって、建物の定期メンテナンスも容易になり、点検も当日で完了します。また、コストの削減や時間の短縮だけでなく、安全性や点検のクオリティにおいても、高所作業が不要となったので、人身事故ゼロを実現できるようになりました。まさに住宅の総点検はドローンの時代です。躍進までお気軽にご依頼、ご相談ください。

大地震を考える 住宅コラム

今年の元日に発生した能登半島地震に関する詳細な報道を耳にする度、改めて「住宅建築においてどこにお金をかけるか」を考えたとき、耐震（制震、免震）性確保であると考えさせられました。その理由は、言うまでもなく家という最大の資産を保全するためです。

そして、冒頭の能登半島地震では、「1981年以降の耐震基準で建てられた家屋も損壊した」でした。つまり頭の中で計算した「大丈夫」という根拠の数値が通用しなかったのです。2000年にも改正が行われましたが、それ以降に建てられた家もいわゆるグレーゾーンとなっているのです。

これは関係者に大きなショックを与えました。なぜなら東日本大震災で震度7を計測した宮城県栗原市では、住宅の損壊がほとんどなかったのです。それなのになぜ能登半島地震ではそんなことが起きたのか。2000年基準以降で建てられた家ですら老朽化が進んでいたとしか思えません。

しかしその前に、耐震等級の確保が重要です。結論を先に居れば、木造住宅であれば、現在一番採用されている木質パネル工法を用いても2が最高で、3を確保するとなれば木造とS増の混構造にしなければなりません(技術的には木造だけで可能とする人もいます)。

「いっそのこと、木造を止めてRCの壁構造にすれば良いじゃないか」という意見もありますが予算が桁違いです。やはり多くのお施主様に木造一戸建てを建てていただき、大地震にも耐えうる性能を確保するのが、工務店様、ビルダー様の使命責務だと思います。

そのためには、定期的な検査で耐震や制震リフォームの提案を行うことを忘れないでください。なぜなら在宅非難を希望するお施主様が圧倒的に多く、人間だけでなくペットを家族としている人にとっては、避難所生活は不可能だからです。

倒壊や全壊になっては仕方ありませんが、そうならないためにも点検リフォームは必要です。こうして耐震強度を保っていけば、震度6や7の大地震に見舞われても半壊程度で済むというものです。半壊のお住まいに応急処置を行えば、その後複数回の大きな余震があっても数年は住めます。大地震に備えるため水や食料などの確保も大事ですが、家が住めなくなってしまっておしまいです。全力でお施主様のお住まいを守りましょう！

株式会社 躍進	関連会社 株式会社 ヤクシンジャパン 不動産事業	事業内容 防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、 ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、 ピンニング、シングル葺き 木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除 及び予防、調湿剤、床下換気 等 塗装工事：各種塗装 外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、 外壁 等診断
本 社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615 東 京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542 URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com	関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ	